

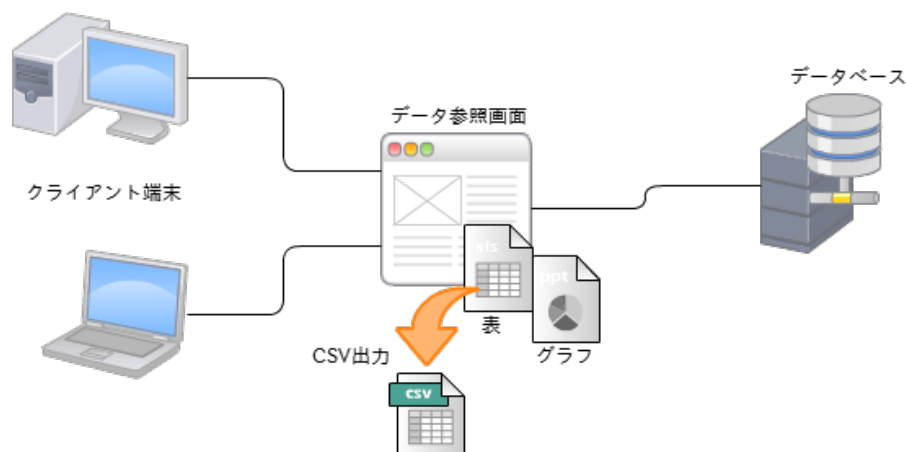


目次

- [改訂情報](#)
- [ViewCreator について](#)
- [基本的な設定](#)
 - [データ参照一覧](#)
 - [リスト集計](#)
 - [クロス集計とグラフ集計](#)
 - [データ参照へのショートカット](#)
 - [スマートフォンからの参照](#)

変更年月日	変更内容
2012-10-01	初版
2014-01-01	第2版 下記を追加・変更しました <ul style="list-style-type: none"> ■ 「スマートフォンからの参照」を追加
2014-04-01	第3版 下記を変更しました <ul style="list-style-type: none"> ■ 「リスト集計」に追記 <ul style="list-style-type: none"> ■ CSVファイルをMicrosoft Excelで読み込む場合についてコラムを追記しました
2015-08-01	第4版 下記を変更しました <ul style="list-style-type: none"> ■ 「リスト集計（サマリ集計）の初期表示でデータの取得をしない方法について」が追記されました
2015-12-01	第5版 下記を変更しました <ul style="list-style-type: none"> ■ 「クロス集計」が更新されました <ul style="list-style-type: none"> ■ 画面インタフェースと機能が一新されました。 ■ 行見出し、列見出し、値それぞれに複数のコラムが設定できるようになりました。 ■ 表示画面上で、コラム設定の入れ替えが可能になりました。
2016-04-01	第6版 下記を変更しました <ul style="list-style-type: none"> ■ 「検索」が追加されました <ul style="list-style-type: none"> ■ クロス集計で検索を利用できるようになりました。
2019-04-01	第7版 下記を変更しました <ul style="list-style-type: none"> ■ 「リスト集計」に表示状態の保持についての説明を追加しました。 ■ 「クロス集計」に表示状態の保持についての説明を追加しました。 ■ 「クロス集計」に「小計行の表示」を追加 ■ 「クロス集計」に「ソートについて」を追加 ■ 「リスト集計」に「AND検索とOR検索（各項目を結合する演算子）について」を追加

ViewCreatorの「データ参照」機能は、サーバマシンのデータベースに格納されている業務データを表やグラフで表示、あるいはCSVファイルとして出力することができる機能です。



表形式では検索機能や列ソートの他にも、データをグループ化することでドリルダウンさせることも可能です。
※検索項目やグループ化する項目などは、データ参照の作成者（管理者）が行います。

また、2つの視点からのデータ分析に便利な「クロス集計」といった集計方法も用意しています。

グラフ形式では、大別して4種類のグラフ（棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、レーダーチャート）に対応します。
グラフの数値データを表として付加表示することもできます。
※実際の設定操作は、作成者が行います。

ここでは基本的な操作ガイドを紹介します。

データ参照一覧

「サイトマップ」を選択して「ViewCreator - データ参照一覧」をクリックします。
あらかじめ管理者側で設定された閲覧可能なデータ参照の一覧が表示されます。

データ参照一覧

データ参照の数が多い場合は検索で絞り込みます。

列ヘッダをクリックすることでデータ参照をソートすることができます。

データ参照の設定を編集する権限があるユーザのみ使用します。

閲覧したいデータ参照のリンクをクリックします

編集	データ参照名	更新日	作成者
<input type="checkbox"/>	クロス集計	2012/09/20 15:15	tenant
<input type="checkbox"/>	グループリスト	2012/09/20 14:49	tenant
<input type="checkbox"/>	レーダーチャート	2012/09/20 14:58	tenant
<input type="checkbox"/>	棒グラフ	2012/09/20 14:48	tenant
<input type="checkbox"/>	円グラフ		tenant

必要に応じて、ソートや検索機能を利用してデータ参照を絞り込んでください。

リスト集計

リスト集計は、作成者サイドの設定次第でデータのグループ化や集計関数の設定
検索項目の追加などを行うことが可能です。

次の画面は、設定の一例として参照してください。

- 目次
- [AND検索とOR検索（各項目を結合する演算子）について](#)

初期表示時です。

年度 - 地域 - 都道府県 グループ化リスト(人口)				
<div> <div>←</div> <div>CSV出力</div> <div>帳票出力</div> <div>検索</div> </div>				
1				
年度	地域名	都道府県名	年齢	人口(合計)
+ 1970		-	-	7,277
+ 1975		-	-	7,515
+ 1980		-	-	7,703
+ 1985		-	-	7,819
+ 1990		-	-	7,800
+ 1995		-	-	7,847
+ 2000		-	-	7,801
				53,762

ドリルダウン可能な列のデータは+アイコンが表示されます。

+アイコンをクリックするとドリルダウンができます。

年度 - 地域 - 都道府県 グループ化リスト(人口)				
<div> <div>←</div> <div>CSV出力</div> <div>帳票出力</div> <div>検索</div> </div>				
1				
年度	地域名	都道府県名	年齢	人口(合計)
- 2000 ← 関東		+ 茨城	-	2,985
		+ 群馬	-	2,020
		+ 埼玉	-	6,925
		+ 神奈川	-	8,475
		+ 千葉	-	5,916
		+ 東京	-	12,017
		+ 栃木	-	2,004
				40,342

青い矢印アイコンでトップ階層に戻ります。

検索可能な項目が設定されている場合は、ツールバーに「検索」が表示されます。

年度 - 地域 - 都道府県 グループ化リスト(人口)

← CSV出力 帳票出力 検索

各項目を結合する演算子 ☒ AND ☐ OR

都道府県名 ☒ 部分一致 ☐ 前方一致 ☐ 完全一致

面積 -

検索 クリア

1

年度	地域名	都道府県名	年齢	人口(合計)
2000 ← 関東		+ 茨城	-	2,985
		+ 群馬	-	2,020
		+ 埼玉	-	6,925
		+ 神奈川	-	8,475
		+ 千葉	-	5,916
		+ 東京	-	12,017
		+ 栃木	-	2,004
				40,342

AND検索とOR検索（各項目を結合する演算子）について

検索項目が複数の場合は、AND検索かOR検索を選択できます。

AND検索の場合

検索項目の条件をすべて満たすレコードが検索結果として表示されます。
ただし、条件値が入力されていない検索項目を除きます。

OR検索の場合

検索項目のうち、いずれかを満たすレコードが検索結果として表示されます。
ただし、条件値が入力されていない検索項目を除きます。

i コラム

2018 Winter(Urara)以前のバージョンでは、リロードアイコンをクリックした際に現在の表示情報を保持したまま再表示されましたが、2019 Spring(Violette)より、リロードアイコンをクリックした際に、検索項目やソート状態がデフォルトの状態で作再表示されます。

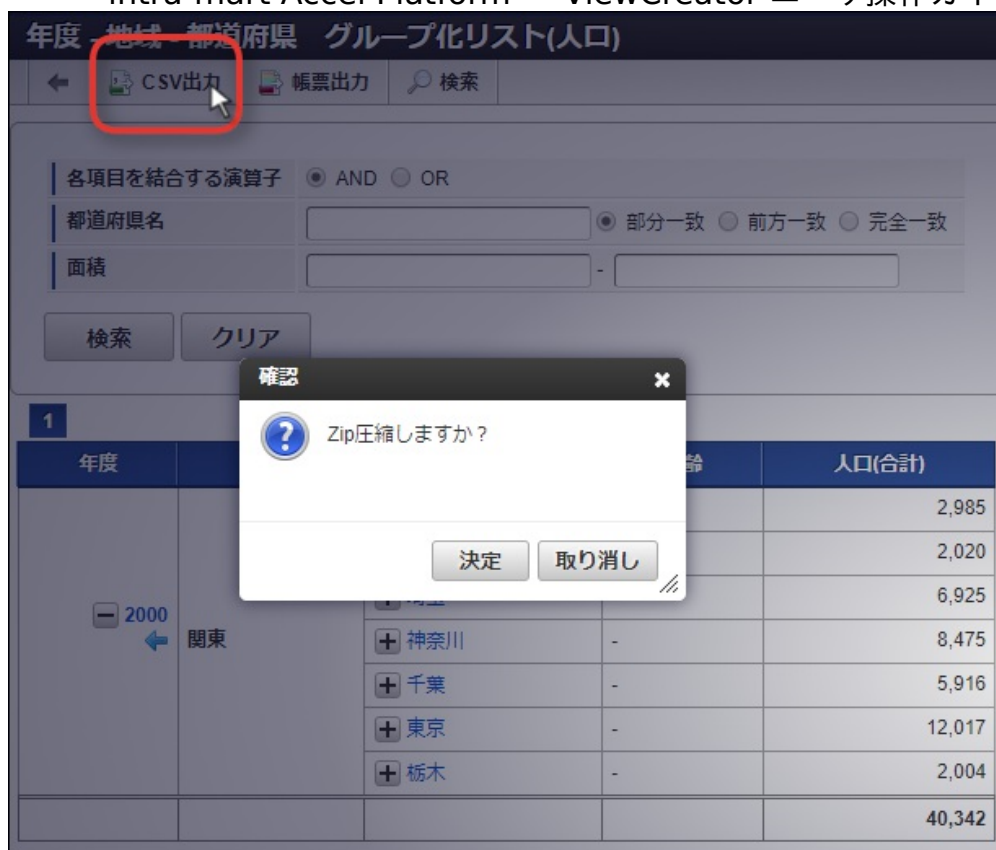
i コラム

2019 Spring(Violette)より、最後に表示したデータの検索条件、ソート順、ページ番号が保存されます。保存した情報は「ブラウザを閉じる」、「リロードアイコンをクリックする」、「データ参照の変更が行われる」のいずれかの操作によって破棄されます。

i コラム

OR検索は2019 Spring(Violette)より、利用できます。

データをCSVファイルで取得したい場合は「CSV出力」を選択します。



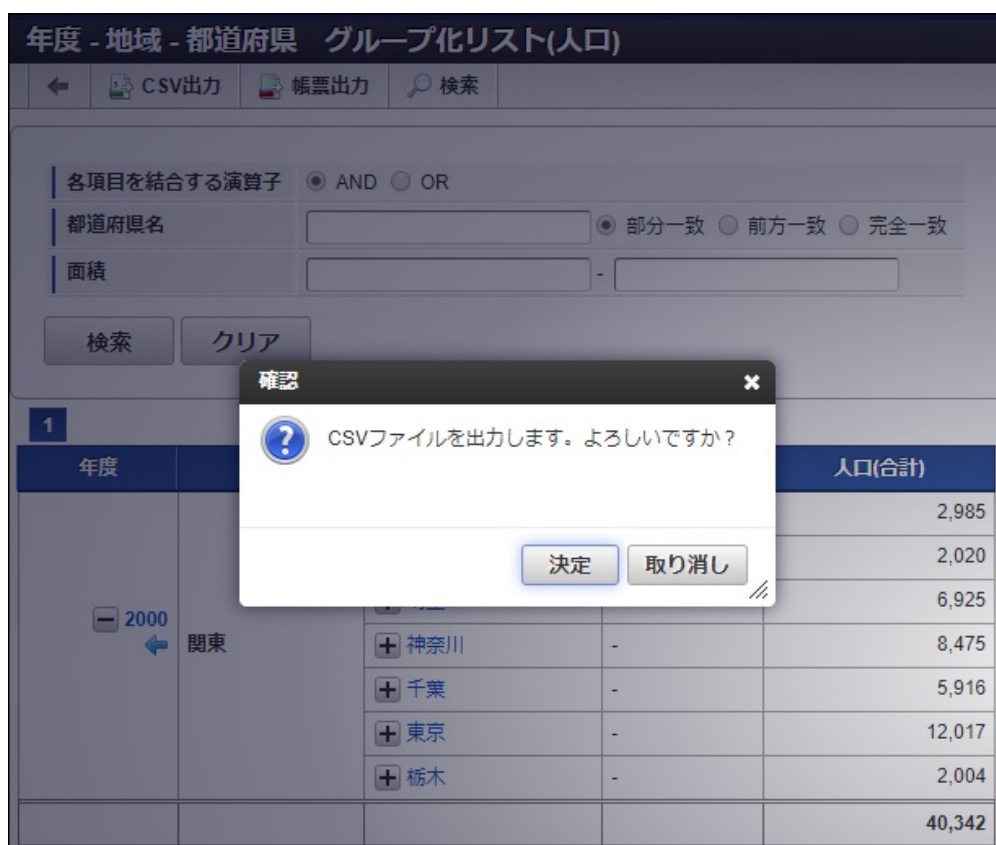
その際、データを圧縮するかどうかを選択できます。



コラム

特に大きなデータを出力する場合はデータを圧縮することを推奨します。

次に確認ダイアログが表示されます。



「OK」をクリックすると出力処理が実行されます。



コラム

出力されたCSVファイルをMicrosoft Excelで開く場合はCSVファイルをダブルクリック等で開くのではなく「外部データの取り込み」機能を利用してください。

例) Microsoft Excel 2013の場合は、以下の操作でBOMなしUTF-8のテキストファイルを読み込むことができます。

「データ」タブをクリックします。

「外部データの取り込み・テキストファイル」をクリックします。

読み込むcsvファイルを選択します



コラム

データ量によっては、ダウンロードダイアログが表示されるまで時間がかかる場合があります。

クロス集計とグラフ集計

目次

- クロス集計
 - 集計方法とは
 - 小計行の表示
 - ソートについて
 - カラムの入れ替えと再表示
 - 検索
- グラフ集計

クロス集計

クロス集計とは、2つの軸でデータを横断的に分析することを可能にする集計方法です。

※下記はクロス集計の表示画面です。編集画面については後述します。



コラム

クロス集計の表のデザインは2019 Spring(Violette)で一新されています。

年度・都道府県別人口 - クロス集計

← 検索 帳票出力

入れ替え可能カラム一覧

列見出し
年度 ソート指定無し ▼

行見出し
地域名 見出し名 ▼ ソート指定無し ▼
都道府県名 見出し名 ▼ ソート指定無し ▼

値
人口 合計 ▼ 数値フォーマット

表示/非表示 ☒ 合計 ☒ 平均 ☐ 最小 ☐ 最大 ☐ カウント

各項目を結合する演算子 ☒ AND ☐ OR

地域名 ☒ すべて選択
☒ 北海道 ☒ 東北 ☒ 関東 ☒ 中部 ☒ 近畿 ☒ 中国 ☒ 四国 ☒ 九州

人口 [] - []

年度 1990 - 2000

表示 クリア

		1990	1995	2000	合計	平均
北海道	北海道	5,634	5,687	5,657	16,978	1,886.44
	小計				16,978	1,886.44
東北	青森	1,482	1,480	1,475	4,437	493
	岩手	1,417	1,419	1,415	4,251	472.33
	宮城	2,241	2,328	2,365	6,934	770.44
	秋田	1,228	1,214	1,189	3,631	403.44
	山形	1,258	1,257	1,244	3,759	417.67
	福島	2,102	2,134	2,127	6,363	707
	小計				29,375	543.98

上記の例では、縦に見れば年度ごと、横に見れば都道府県ごとの人口データを表示しています。
クロス集計には、次の3種類のカラムが設定できます。

- 列見出し
- 行見出し
- 値

列見出しと行見出しには「ソート順」、値に関しては「集計方法」を選択します。

「ソート指定無し」が選択された場合は、データベースから取得されたレコード順に従って見出しの作成が行われます。

集計方法とは

例)

年度	都道府県名	人口
1970	千葉	810
1970	千葉	200
1970	千葉	50

年度	都道府県名	人口
1970	東京	1500
1970	東京	350

このようなデータであれば、年度が“1970”で都道府県名が“千葉”のレコードは3つあります。
 このとき、その3レコードの人口データ(810, 200, 50)をどのような方法で1つに纏めるのかを設定します。
 ⇒ 合計、平均、最大、最小、カウント、標準偏差、分散

※カウントを選択した場合は値に関係なくレコード数が集計結果として扱われます。

「表示/非表示」の項目で表示されている、合計、平均、最小、最大、カウントのチェックボックスは、列ごと、行ごと、トータルの集計結果を表示するかどうかを設定できます。

小計行の表示

「行見出し」に複数のカラムが設定されている場合（カテゴライズされている場合）は、「表示/非表示」の項目についてカテゴリ単位で小計を表示します。

コラム

小計行は 2019 Spring(Violette)より、表示されます。

コラム

「値」に複数のカラムが設定されている場合は、設定画面上で上にセットされたカラムのデータを小計行に表示します。

ソートについて

「列見出し」と「行見出し」には、それぞれソート順を指定できます。
 ソートは「見出し名（ラベル）」を利用して行います。
 「行見出し」については、集計結果（合計、平均、最小、最大、カウント）を利用したソートを行うことも可能です。
 「行見出し」に複数のカラムが設定されている場合（カテゴライズされている場合）は、カテゴリ単位で行われた小計の値でソートします。

コラム

「行見出し」の集計結果を利用したソート機能は 2019 Spring(Violette)より、利用可能です。

注意

「表示/非表示」がチェックされていない集計結果でソートすることはできません。

カラムの入れ替えと再表示

カラムの入れ替えはドラッグ&ドロップで行うことができます。
 「入れ替え可能カラム一覧」に配置されたカラムは、クロス集計の計算から除外されます。
 「表示」ボタンをクリックすると、再計算が実行されます。

年度・都道府県別人口 - クロス集計

← 検索 帳票出力

入れ替え可能カラム一覧 <div>地域名</div> <div>都道府県名</div>	列見出し 年度 <div>ソート指定無し ▼</div>
行見出し	値 人口 <div>合計 ▼</div> 数値フォーマット <div></div>

表示/非表示 ☒ 合計 ☒ 平均 ☐ 最小 ☐ 最大 ☐ カウント

各項目を結合する演算子	<input checked="" type="radio"/> AND <input type="radio"/> OR
地域名	<input checked="" type="checkbox"/> すべて選択 <input checked="" type="checkbox"/> 北海道 <input checked="" type="checkbox"/> 東北 <input checked="" type="checkbox"/> 関東 <input checked="" type="checkbox"/> 中部 <input checked="" type="checkbox"/> 近畿 <input checked="" type="checkbox"/> 中国 <input checked="" type="checkbox"/> 四国 <input checked="" type="checkbox"/> 九州
人口	<div></div> - <div></div>
年度	<div></div> - <div></div>

表示

クリア

	1970	1975	1980	1985	1990	1995	2000	合計	平均
合計	104,665	111,896	116,985	121,017	123,286	125,436	126,699	829,984	
平均	742.3	793.59	829.68	858.28	874.37	889.62	898.57		840.92

i コラム

「値」にセットされたカラムの数値フォーマットにはjava.text.DecimalFormatで利用可能なフォーマット文字列を設定できます。

3桁区切りにする場合: #,###

小数点以下第2位まで表示する場合: #.##

! 注意

クロス集計では、対象となる全てのデータをメモリ上に展開して計算が実行されます。

データ量や表の大きさ（行見出しと列見出しの項目数に依存します）が大きすぎる場合は、エラーが発生する可能性があります。

検索

クロス集計では、キーワード検索、範囲検索の他に、チェックボックス形式でデータの絞り込みを行うことが可能です。

年度・都道府県別人口 - クロス集計

← 検索 帳票出力

入れ替え可能カラム一覧

地域名 見出し名 ▼ ソート指定無し ▼

都道府県名 見出し名 ▼ ソート指定無し ▼

列見出し

年度 ソート指定無し ▼

値

人口 合計 ▼ 数値フォーマット

表示/非表示 ☒ 合計 ☒ 平均 ☐ 最小 ☐ 最大 ☐ カウント

各項目を結合する演算子 ☒ AND ☐ OR

地域名 ☒ すべて選択
☒ 北海道 ☒ 東北 ☒ 関東 ☒ 中部 ☒ 近畿 ☒ 中国 ☒ 四国 ☒ 九州

人口 -

年度 1990 - 2000

表示 クリア

		1990	1995	2000	合計	平均
北海道	北海道	5,634	5,687	5,657	16,978	1,886.44
	小計				16,978	1,886.44
東北	青森	1,482	1,480	1,475	4,437	493
	岩手	1,417	1,419	1,415	4,251	472.33
	宮城	2,241	2,328	2,365	6,934	770.44
	秋田	1,228	1,214	1,189	3,631	403.44
	山形	1,258	1,257	1,244	3,759	417.67
	福島	2,102	2,134	2,127	6,363	707
	小計				29,375	543.98

i コラム

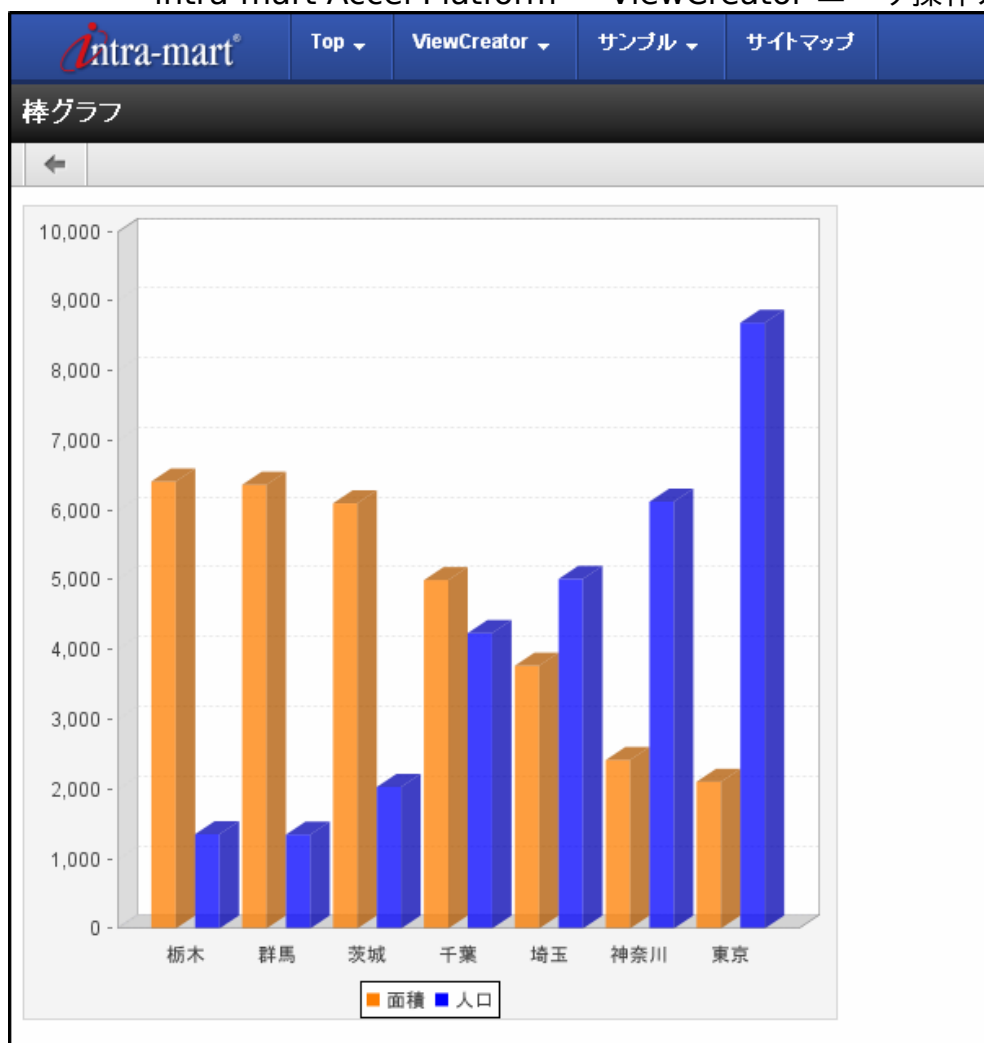
クロス集計の検索設定は2016 Spring(Maxima)から利用可能です。

i コラム

2019 Spring(Violette)より、最後に表示したデータのカラムの表示状態、検索条件が保存されます。保存した情報は「ブラウザを閉じる」、「リロードアイコンをクリックする」、「データ参照の変更が行われる」のいずれかの操作によって破棄されます。

グラフ集計

グラフ集計では、特に画面上で行う操作はありません。



データ参照へのショートカット

データ参照画面のURLは、ブラウザの「お気に入り」などに登録しておいてダイレクトにアクセスすることが可能です。

目次

- [リスト集計（サマリ集計）の初期表示でデータの取得をしない方法について](#)

URLは次のような構造になっています。

{コンテキストパス}/viewcreator/dataview/{データ参照の種類}/{データ参照コード}

- データ参照の種類は、次のいずれかがセットされます。

リスト集計 list

クロス集計 cross

グラフ集計 graph

- 例)

/imart/viewcreator/dataview/graph/line

**コラム**

参照権限が設定されていないデータ参照にアクセスすることはできません。
アクセスできない場合は、データ参照の作成者または管理者へ連絡してください。

リスト集計（サマリ集計）の初期表示でデータの取得をしない方法について

**コラム**

2015 Summer(Karen)から利用可能です。

リスト集計とサマリ集計は、URLに「?getDataOnInit=false」を付加することで、初期表示時にデータの取得を行わないようにすることが可能です。

- 例)

/viewcreator/dataview/list/5i7urzmesvqqip4?getDataOnInit=false

**コラム**

一覧にレコードが1件も表示されていない場合は、検索条件入力エリアが表示された状態になります。

スマートフォンからの参照

データ参照はスマートフォンから閲覧することが可能です。

サイトマップから「ViewCreator」 - 「データ参照一覧」をタップします。



登録されているデータ参照の一覧が表示されます。



閲覧したいデータ参照項目をタップすると、参照画面へ遷移します。

■ リスト集計



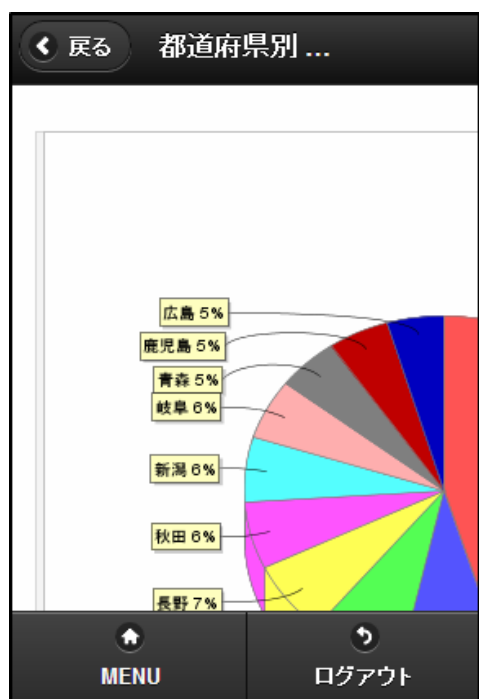
■ クロス集計

◀ 戻る 年度・都道府...

人口/合計		1970	1975	1980
	三重	1,542	1,626	1,687
	京都	2,250	2,424	2,527
	佐賀	839	837	866
	兵庫	4,668	4,991	5,138
	北海道	5,184	5,338	5,574
	千葉	3,367	4,146	4,731
	和歌山	1,042	1,073	1,087
	埼玉	3,867	4,819	5,417

↑ MENU ↻ ログアウト

■ グラフ集計



コラム

スマートフォン画面からCSV出力を行うことはできません。

